

地震一口メモ No. 157

2018年6月18日 大阪府北部の地震について

2018年6月18日07時58分、大阪府北部の地震（深さ13km、M6.1）により、大阪市北区・高槻市・枚方市・茨木市・箕面市で震度6弱を観測したほか、近畿地方を中心に、関東地方から九州地方の一部にかけて震度5強～1を観測し（図1）、死者4人、負傷者428人、住家全壊9棟などの被害がありました（7月4日18時00分現在：総務省消防庁による）。この地震は陸域の浅い地震でした。

この地震発生後、震度1以上を観測した地震が、6月30日までに41回発生（最大震度4が1回、最大震度3が4回、最大震度2が11回、最大震度1が25回）するなど、地震活動は減衰しつつも継続しています（図2）。平常時より地震活動が活発な状況が続いており、今後も現状程度の地震活動は当分続くと考えられます。揺れの強かった地域では、家屋の倒壊や土砂災害などの危険性が高まっていますので、今後の地震活動や降雨の状況に十分注意し、身の安全を図るよう心がけてください。

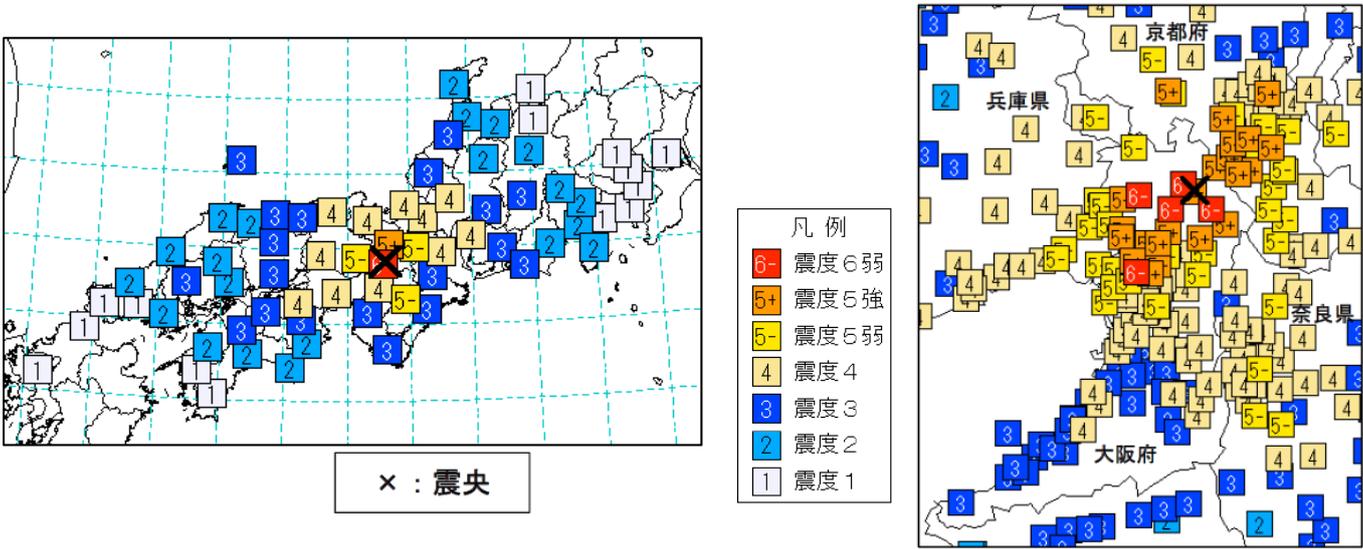


図1 18日07時58分 大阪府北部の地震（深さ13km、M6.1）（左）地域震度分布図、（右）観測点震度分布図（大阪府周辺を拡大）

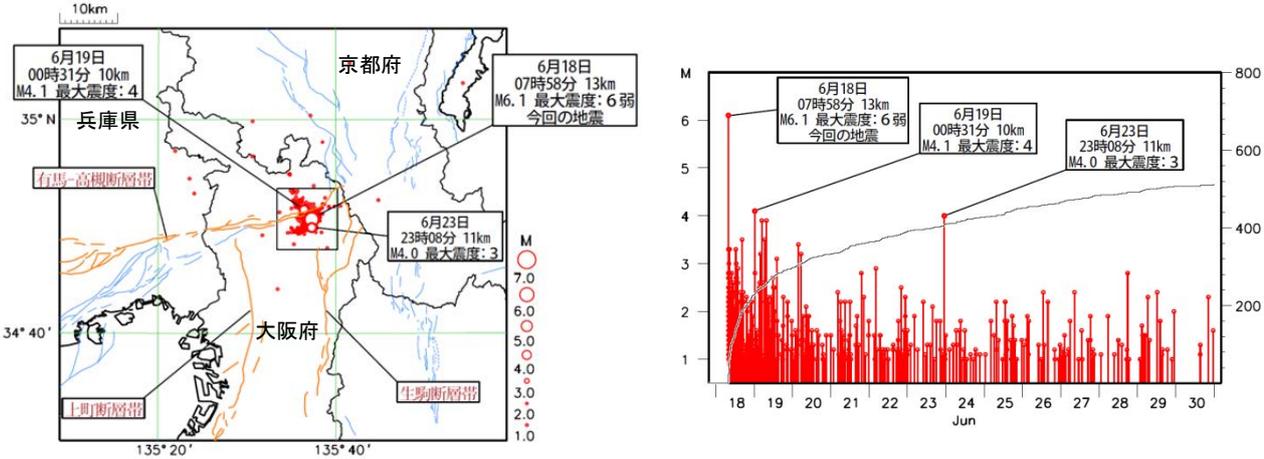


図2 （左）震央分布図（2018年6月18日～2018年6月30日、マグニチュード1.0以上、深さ0～20km）
M4.0以上の地震に吹き出しを追加、図中の橙色と水色の線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す
（右）震央分布図の四角枠内の地震活動経過および回数積算図

今回の地震では、地震検知（地震計で地震波を捉えること）から3.2秒後に緊急地震速報（警報）が発表されましたが、震源の近くでは強い揺れが来るまでに、緊急地震速報（警報）の発表が間に合っていないことがわかります（図3の薄赤の範囲）。このように、陸域の浅い地震の場合、震源の近傍では緊急地震速報（警報）が技術上間に合わないことがあります。そのため、突然の揺れに十分に身構えることが難しい場合を想定した、事前の備えが非常に大切です。例えば、普段生活している建物の耐震補強や家具の固定、水や食料等の備蓄、避難場所の確認のほか、普段通る道周辺に危険なところはないか点検して適切な処置をしておく、などがあります。

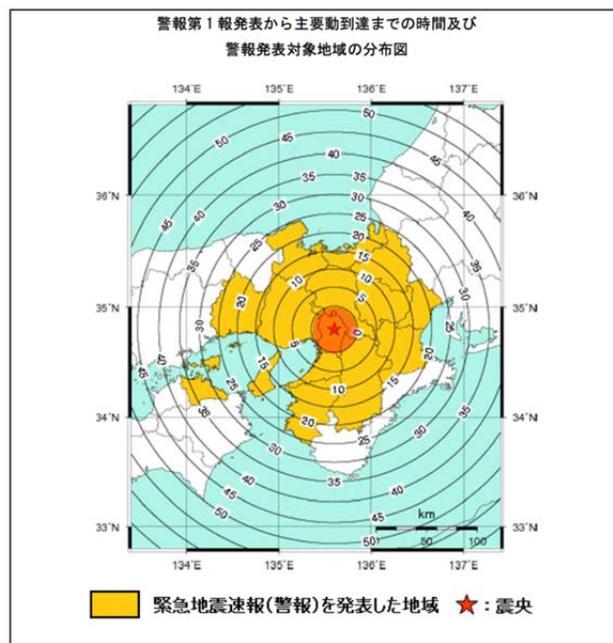


図3 18日07時58分 大阪府北部の地震の緊急地震速報（警報）

また、図4のように、最近およそ20年間の大阪府周辺の地震活動は、今回の地震が発生するまで、有馬一高槻断層帯の北側で定常的な地震活動が見られていましたが、そのほか特に目立った活動はありませんでした。

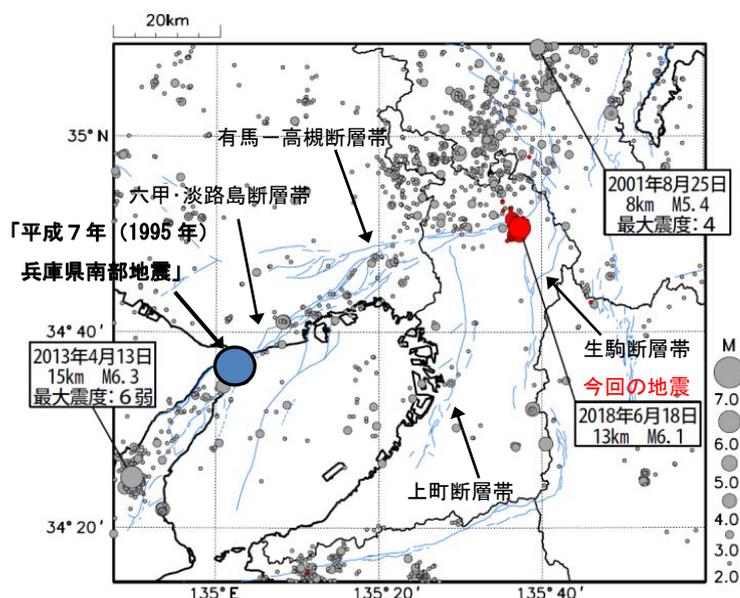


図4 震央分布図

(1997年10月1日～2018年6月30日、
深さ0～20km、マグニチュード2.0以上)
2018年6月の地震を赤色表示
M5.0以上の地震に吹きだしを追加
図中の水色の線は地震調査研究推進本部の
長期評価による活断層を示す

陸域の浅い地震として、最近の例では「平成28年（2016年）熊本地震」が挙げられますが、近畿地方の陸域の浅い地震としては「平成7年（1995年）兵庫県南部地震」（M7.3）があります。

兵庫県南部地震は、兵庫県で最大震度7を観測し、死者6,434人、行方不明者3人、負傷者43,792人、住家全壊104,906棟などの甚大な被害が生じ（被害は総務省消防庁による）、その死因のほとんどが建物や家具等の下敷きによる圧死でした。

日本国内では、いっどこで強い揺れを伴う地震が発生してもおかしくありません。日頃から地震への備えを心がけてください。